



平成29年度予算（肉付け予算）が決定 肉付け後の一般会計予算額 262億7,200万円

平成29年度の当初予算は、市長交代により経常経費及びこれまで実施に向けて調査や設計などを進めてきた継続事業を中心とする「骨格予算」として、一般会計は261億8,000万円が編成されました。

今回、6月の補正予算では、新たな政策を進めるため「5つの行動」に基づき早期に着手、または重点的に実施すべき12の事業を盛り込んだ「肉付け予算」と、災害復旧事業や地方創生関連など国庫補助事業の内示を受けて計上した通常の補正予算を含めて編成しています。このうち、当初予算と一体的に実施する肉付け予算については一般会計で92,000万円を計上し、骨格予算と肉付け予算を合わせた一般会計の総額262億7,200万円は、平成28年度一般会計当初予算と比較して、1億2,200万円（0.5%）の増となっています。



	平成29年度			平成28年度	比較	
	当初予算 (骨格予算)	6月補正予算 (肉付け予算)	計	当初予算	増減額	伸び率
一般会計	261億8,000万円	9,200万円	262億7,200万円	261億5,000万円	1億2,200万円	+0.5%

肉付け予算事業 ～5つの行動に沿った事業～

新たな市政運営の基本的な考え方は「生きたい・行きたい・活きたい 南あわじに!」です。住みやすく、生きがいあふれるまちづくり、また行ってみたい、住んでみたいまちづくりをめざしています。肉付け予算では、その考えを実現させるための5つの行動を重点項目とし、それぞれに沿った事業費を計上しています。これらの事業にかかる財源は、国庫支出金及び市債のほか、ふるさと南あわじ応援寄附金（ふるさと納税）を原資とするふるさとまちづくり基金を取り崩して充当しています。

1. 仕事・社会貢献活動の継続による健康寿命の伸長
高齢者等元気活躍推進事業・・・1,500万円
高齢者をはじめ市民一人ひとりの健康寿命を伸長し、健康で暮らし続けられる環境整備、また「地域通貨」を見据えたポイント制度の導入に向けた支援を行う。

2. 子育て環境の向上と教育の充実
公園・憩いの場調査事業・・・540万円
市内の公園・憩いの場等の現況調査を実施し、市内の公園等における子育て支援機能の強化策等の検討を行う。
保育所再編整備事業・・・800万円
入所児童数の増加傾向にある市保育所について、保育室の拡張が必要であることから将来の受け入れ人数等を推計し、施設整備を実施する。

出産支援事業・・・100万円
産科医院の選択肢の幅を広げることを目的に、島外の産科医院への健診及び出産時の費用を一部助成。※詳しくは広報紙8頁
防災ジュニアリーダー養成事業・・・100万円
市内の小中学校において防災教育授業を実施して意識高揚を図るとともに、防災学習や東日本大震災被災地への派遣による「防災ジュニアリーダー」を養成する。

3. 地域の資源を生かした産業の活性化
新製品・新技術開発等支援事業・・・380万円
市内の中小企業者や個人事業者による新製品や新技術の開発を支援する。※詳しくは広報紙8頁
農商工連携・地域資源プロモーション事業・・・1,000万円
淡路島サクラマスの強化プロモーションや美菜恋来屋のブランディングの強化など地域資源のプロモーションを実施。
泉源調査事業・・・1,300万円
市内の貴重な観光資源である温泉の新たな泉源を開発するための調査研究を行う。
新工法導入推進事業・・・180万円
ため池改修等を行う際の新たな工法（ポンテラン工法等）の導入検証及び普及啓発を行う。

4. 安心・安全なまちづくり
空家等対策事業・・・1,500万円
空家の適正な維持管理や住宅ストックとしての活用など、市内の空家等対策を推進していくため、建物の位置や状態、所有者の特定などの実態調査を実施し、空家対策を推進する。

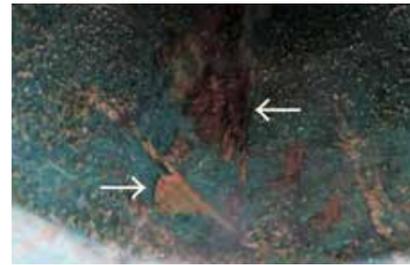
5. 「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり
地域づくりチャレンジ事業・・・300万円
地域の多様なコミュニティの力を集結し、課題解決などに取り組んでいく仕組みである地域づくり協議会が策定する「地域計画」に基づき実施される、地域を良くするチャレンジを支援する。
業務改革プロジェクト事業・・・1,500万円
市役所業務の効率化及び最適化を行い、対話と行動の行政を実現するため、業務量の把握にかかる調査経費や業務最適化のためのマニュアルを作成する。

松帆銅鐸の埋められた年代が判明！ 埋納年代を知る貴重な資料に

平成28年度に松帆2号銅鐸、4号銅鐸と4号舌、7号舌に残っていた植物の破片8点を放射線炭素年代測定という方法で分析をしました。その結果は次のとおりです。

- ◆4号銅鐸からは紀元前4世紀～紀元前2世紀（約2400～2200年前）
- ◆2号銅鐸からは紀元前9世紀～紀元前8世紀（約2900～2800年前）と紀元前14世紀～紀元前12世紀（約3400～3200年前）
- ◆7号舌からは紀元前22世紀～紀元前21世紀（約4200～4100年前）

4号銅鐸の結果は、年代がある程度まとまっているので信頼できる数値だと考えられます。それに対し、2号銅鐸は4号銅鐸と同じ鑄型で造られた兄弟銅鐸であるにもかかわらず年代差がかなりあります。その原因は、分析に必要な炭素の量が少なかったためと思われる。



今回、松帆銅鐸の埋納年代測定に使用された4号銅鐸内に残っていた植物の破片

期末（1世紀前後）と後期末（3世紀前後）の2時期に、いっせいに埋められたと考えられていましたが、今回の調査で、それより前にも埋められていたことがわかりました。

放射性炭素年代測定法（C14測定法）とは？
動植物が体内に取り込んだ炭素14の比率は生きている間は一定ですが、死んだあとはこの比率が規則的に下がっていく習性を持っています。その比率を導き出すことで、死んでから何年経っているか、つまりいつの年代のものをかを計測する年代測定法です。

県立舞子高校と「教育提携に関する協定」を締結

南あわじ市と全国唯一の環境防災科をもつ兵庫県立舞子高校が「教育提携に関する協定」を締結するため5月19日、関係者らが出席し、調印式が行われました。

この協定は、市内の小中学生に災害時の正しい知識や行動を身に付けてもらうため、災害ボランティア活動などを実践する舞子高校の生徒から

学ぶ教育プログラムなどを相互に開発していくものです。調印式で守本市長は「新しい防災教育を開拓する。互いの成長につながって欲しい」とあいさつ。舞子高校の谷川彰一校長は「高校生が学んだことを伝える場を得られ感謝している。人へのやさしさ、思いやりの心を育てて欲しい」と話しました。



協定書に署名した守本市長と県立舞子高校の谷川校長

厚労省二川事務次官による講演会を開催

厚生労働省の二川一男事務次官による講演会が5月27日、広田地区公民館で開催され、医療や介護関係者ら約200人が集まりました。

「2025問題・地域医療構想」と題した講演で、2025年に4人に1人が75歳以上という超高齢化社会を迎え、医療費の急増

が懸念されると説明しました。続けて超高齢化社会に対応するための国の動向として、地域医療構想（地域の実情に応じた医療の提供）や地域活用ケアシステム（住まい・医療・介護・予防・生活支援が住み慣れた地域で一体的に提供されるシステム）を推進していると話しました。